

ガスこんろ、ガスオーブン

ガスこんろ 掲載製品

家庭用で、都市ガス13AかLPGを使用するものを掲載しています。ガスグリル、ガスクッキングテーブル、特注生産品、特殊仕様品等は対象外です。

ガスこんろ 区分

設置形態、グリルの有無によって区分を行っています。

ガスこんろ・卓上形	ガスこんろ・組込形	ガスこんろグリル付・卓上形
ガスこんろグリル付・組込形	キャビネット形	ガスレンジ

設置形態

卓上形はキッチン台の上に置いて使用するもので、テーブルこんろともいいます。

組込形はシステムキッチンに組み込んで使用するもので、ビルトインこんろともいいます。

キャビネット形は専用のキャビネットの上に取り付けて使用するものです。

ガスレンジは、こんろとオーブンを組み合わせたものをいいます。

ガスこんろ 一覧表の各種表示について

● 目標年度

トップランナー基準を達成すべき年度で、こんろ部が2006年度、グリル部・オーブン部が2008年度です。

● ラベル印刷

省エネラベリング制度、年間ガス消費量を表示した省エネラベル（簡易版ラベル）を印刷できます。

● 省エネルギーラベリング制度

省エネ法で定めた省エネ性能の向上を促すための目標基準（トップランナー基準）を達成しているかどうかをラベル（省エネルギーラベル）に表示するものです。

● 省エネ性マーク

トップランナー基準を達成した（省エネ基準達成率100%以上）製品についてはグリーンマーク（●e）が表示され、未達成（省エネ基準達成率100%未満）の製品についてはオレンジ色のマーク（○e）が表示されます。

● 省エネ基準達成率(%)

その製品が属するトップランナー基準の区分の目標基準値を、どの程度達成しているかを%で示します。こんろ部は設置形態やバーナーの数より分けられた区分ごとに、目標基準値が設定され、グリル部は燃焼方式、調理方式により分けられた区分ごとに、目標基準値算定式が設定され、オーブン部は設置状態により分けられた区分ごとに、目標基準値算定式が設定されています。

● エネルギー消費効率〈こんろ部〉

こんろ部のエネルギー消費効率は、こんろで測定した熱効率(%)を用い、小数点以下1桁まで表示します。2口以上のバーナーを持つこんろのエネルギー消費効率は、各バーナーの熱効率を小バーナー1：中バーナー2.1：大バーナー3.5で加重平均した数値になります。

$$\text{熱効率(\%)} = \frac{\text{鍋に入れた水が得た熱量}}{\text{消費したガスの発熱量}} \times 100$$

● エネルギー消費効率〈グリル部・オーブン〉

グリル部及びオーブンのエネルギー消費効率は、1回の調理に要するガス消費量(Wh)とし、整数で表示します。

・グリル部のエネルギー消費効率：

調理頻度の高い食品(アジ)と同程度の熱容量を有する銅製のブロックの初温から100K上昇するまでのガス消費量(Wh)です。

・オーブンのエネルギー消費効率：

オーブン庫内の温度が初温から180K上昇するまでのガス消費量と、その後継続して、その状態を20分間保持した間のガス消費量を合算した値(Wh)です。

● ガス種

ガスの種類には、都市ガスとプロパンガスがあります。都市ガスはさらに7種類に分けられ、13Aはその種類の1つで、天然ガスとも呼ばれています。プロパンガスはLPGやLPガスと呼ばれています。ガス種によって、ガス器具の仕様が異なります。

● ガス消費量(kW)

大・中・小バーナー、グリル部、オープンにおいて、単位時間当たりの燃焼で消費するガスの熱量です。この数値が大きいほど、火力が強くなります。

● 小バーナー

表示ガス消費量が2.02kW以下のもの

● 中バーナー

表示ガス消費量が2.02kWを越え3.49kW以下のもの

● 大バーナー

表示ガス消費量が3.49kWを越え5.80kW以下のもの

● 年間の目安ガス使用量(m³/年)

一世帯3人家族を基準にして、グリル部の年間使用回数は209回、オープンの年間使用回数48回とし、こんろ部、グリル部、オープンについて、下表の都市ガスの算出式より求め、合計した数値を小数点以下1桁まで表示しています。家族の構成人員、各家庭の使用実態等によって異なります。

こんろ部

$$\text{こんろ部の年間の目安燃料使用量(m}^3\text{/年)} = \frac{\text{年間こんろ部出力 (MJ/年世帯)}}{\text{エネルギー消費効率 (\%)} \times \text{換算係数}}$$

こんろ部出力は1400MJ/年世帯とし、換算係数は都市ガス46.05MJ/m³、LPG104.22MJ/m³とします。

グリル部

$$\text{グリル部の年間の目安燃料使用量(m}^3\text{/年)} = \frac{\text{グリル部の年間使用回数 (209回)} \times \text{エネルギー消費効率 (Wh)}}{\text{換算係数}}$$

換算係数は都市ガス46.05MJ/m³、LPG104.22MJ/m³、3.60MJ/kWhとします。

オープン

$$\text{オープンの年間の目安燃料使用量(m}^3\text{/年)} = \frac{\text{オープンの年間使用回数 (48回)} \times \text{エネルギー消費効率 (Wh)}}{\text{換算係数}}$$

換算係数は都市ガス46.05MJ/m³、LPG104.22MJ/m³、3.60MJ/kWhとします。

● グリル部機能

燃焼方式は、片面焼き（食材の片側から加熱）と両面焼き（食材の両側から加熱）があります。両面焼きは通常、途中で食材を裏返す作業が不要です。調理法式は、水有（グリル皿に水を張る）と水無（グリル皿に水を張らない）があります。

● 備考

複数の機能を有する機器は、主たる機能を表示します。

● 本サイト掲載日

製品の登録日を掲載し、機種名(型番)の前に「New」を付けて、掲載日より1ヶ月表示します。並べ替え機能で新着情報を上から順に並べ替えることができます。

● 更新日

製品情報に修正が入った際の更新日を掲載し、機種名(型番)の前に「Update」を付けて、更新日より1ヶ月表示します。ただし、本サイト掲載日から1ヶ月以内の更新は、「New」が優先されます。並べ替え機能で更新日順に並べ替えることができます。

● JANコード

国際的な共通商品コードです。13桁の数字で表示し、その商品がどこの国の、どこの企業の、どの商品であるかを識別できます。

ガスオーブン 掲載製品

家庭用で、都市ガス13A、LPGガスを使用するガスオーブンを掲載しています。ただし、業務用のものは対象外です。

ガスオーブン 区分

設置形態によって区分を行っています。

卓上形又は据置形	組込形
----------	-----

卓上形はキッチン台の上に置いて使用するもので、組込形はシステムキッチンに組み込んで使用するものです。

ガスオーブン 一覧表の各種表示について

● 目標年度

トップランナー基準を達成すべき年度で、ガスオーブンは2008年度です。

● ラベル印刷

省エネルギーラベル制度、年間ガス消費量を表示した省エネルギーラベル（簡易版ラベル）を印刷できます。

● 省エネルギーラベル制度

省エネ法で定めた省エネ性能の向上を促すための目標基準（トップランナー基準）を達成しているかどうかをラベル（省エネルギーラベル）に表示するものです。

● 省エネ性マーク

トップランナー基準を達成した（省エネ基準達成率100%以上）製品についてはグリーンマーク（●e）が表示され、未達成（省エネ基準達成率100%未満）の製品についてはオレンジ色のマーク（○e）が表示されます。

● 省エネ基準達成率（%）

その製品が属するトップランナー基準の区分の目標基準値を、どの程度達成しているかを%で示します。ガスオーブンは設置状態により分けられた区分ごとに、目標基準値算定式が設定されています。

● エネルギー消費効率（Wh）

ガスオーブンのエネルギー消費効率は、1回の調理に要するガス消費量(Wh)です。オーブン庫内の温度が初温から180K上昇するまでのガス消費量と、その後継続して、その状態を20分間保持した間のガス消費量を合算した値(Wh)です。

● ガス種

ガスの種類には、都市ガスとプロパンガスがあります。都市ガスはさらに7種類に分けられ、13Aはその種類の1つで、天然ガスとも呼ばれています。プロパンガスはLPGやLPガスと呼ばれています。ガス種によって、ガス器具の仕様が異なります。

● ガス消費量(kW)

単位時間当たりの燃焼で消費するガスの熱量です。この数値が大きいほど、火力が強くなります。

● 年間の目安ガス使用量(m³/年)

一世帯3人家族を基準にして、年間使用回数48回とし、都市ガス13Aの算出式（13Aに対応していないものはLPGの算出式）より小数点以下1桁まで求め、合計した目安ガス消費量を表示しています。家族の構成人員、各家庭の使用実態等によって異なります。

オーブンの年間の目安燃料使用量(m³/年) =

$$\frac{\text{オーブンの年間使用回数 (48回)} \times \text{エネルギー消費効率 (Wh)}}{\text{換算係数}}$$

換算係数は都市ガス46.05MJ/m³、LPG104.22MJ/m³、3.60MJ/kWhとします。

● 備考

複数の機能を有する機器は、主たる機能を表示します。

● 本サイト掲載日

製品の登録日を掲載し、機種名(型番)の前に「New」を付けて、掲載日より1ヶ月表示します。並べ替え機能で新着情報を上から順に並べ替えることができます。

● 更新日

製品情報に修正が入った際の更新日を掲載し、機種名(型番)の前に「Update」を付けて、更新日より1ヶ月表示します。ただし、本サイト掲載日から1ヶ月以内の更新は、「New」が優先されます。並べ替え機能で更新日順に並べ替えることができます。

● JANコード

国際的な共通商品コードです。13桁の数字で表示し、その商品がどこの国の、どこの企業の、どの商品であるかを識別できます。

上手な選び方

家族構成、台所スペース、料理の種類、使い方に合ったものを選びましょう。

ガス調理機器の種類

ガスコンロやガスオーブンは大きく分けて、卓上形とシステムキッチンに組み込まれている組込形があります。その他に台または床に据え置く据置形、専用のキャビネットの上に取り付けるキャビネット形があります。

エネルギー消費効率

コンロではエネルギー消費効率が100%に近いほど、グリルやオーブンではエネルギー消費効率が小さいほど、省エネ性が優れた機器といえます。

省エネ基準達成率

その製品が属するトップランナー基準の区分の目標基準値を、どの程度達成しているかを%で示します。

コンロ部は設置形態やバーナーの数により分けられた区分毎に目標基準値が設定され、グリル部は燃焼方式、調理方式により分けられた区分毎に目標基準値算定式が設定され、オーブンは設置状態により分けられた区分毎に目標基準値算定式が設定されています。

ガスコンロの選び方

バーナーの数とガス消費量

使い方に合ったバーナーの数のものを選び、各バーナーのガス消費量にも注目しましょう。ガス消費量が大きいほど、火力が強くなります。

グリルの機能

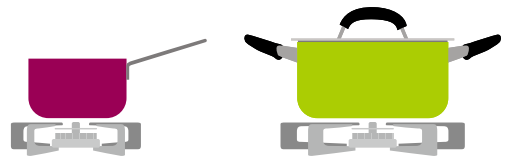
- 水無グリル：グリル皿に水を張る必要がないため、取り出すときに水がこぼれる心配がありません。
- 両面焼き機能：グリルの上下にバーナーがあり、魚を両面同時に焼くため、魚を裏返す手間がいりません。

ガスオーブンの選び方

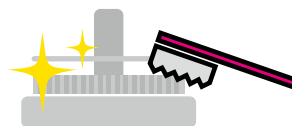
- 庫内容積：料理の種類や量に合わせた庫内容積のものを選びましょう。
- 機能：電子レンジ機能、自動調理機能他、便利な機能がついているものがあります。

上手な使い方

使い方しだいで燃料の無駄を省くことができます。

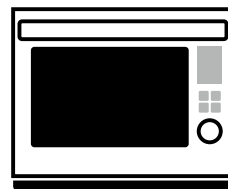


鍋の大きさや料理によって、火力の異なるバーナーを使い分けましょう。料理によって火加減を調節しましょう。



バーナーの掃除をしましょう。目詰りすると、熱効率が落ちます。

コンロの炎は鍋の底からはみださないように調節しましょう。中火にすると熱効率が最もよくなります。



煮物の下ごしらえは電子レンジを活用すると、時間も短縮できて経済的です。

また、コンロで煮込むときは落としふたをすると、味もよくなり、熱効率がよくなります。

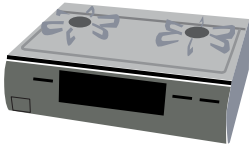

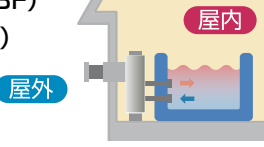
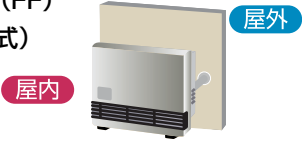

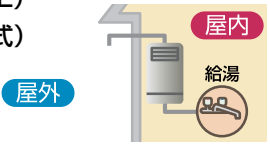
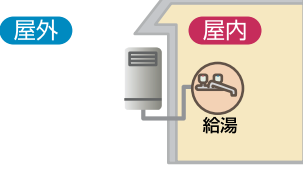


おすすめ

鍋ややかんの底は、平らで大きいものの方が熱効率はよくなります。また、水分はふきとってから使しましょう。底がぬれたままだと水を蒸発させるのに余分なエネルギーが必要になります。

ガス・石油機器について

燃焼方式による給排気方式の区分

●給排気方式		●燃焼方式 (例)	●燃焼方式 (例)
開放式	空気を屋内からとり、排気も屋内に出す方式	自然燃焼方式 	強制燃焼方式 
密閉式	空気を屋外からとり、排気も屋外に出す方式	自然給排気式 (BF) (自然燃焼方式) 	強制給排気式 (FF) (強制燃焼方式) 
半密閉式	空気を屋内からとり、排気を屋外に出す方式	自然排気式 (CF) (自然燃焼方式) 	強制排気式 (FE) (強制燃焼方式) 
屋外式 (RF)	空気を屋外からとり、排気も屋外に出す方式		

給排気方式とは

給排気方式は、「給気方式」と「排気方式」とを組み合わせた言葉です。給排気方式は、ガスや石油を燃焼させるのに必要な空気をどこからとり入れ、排気ガスをどこへ出すかによって異なり、「開放式」「密閉式」「半密閉式」「屋外式」があります。「開放式」「密閉式」「半密閉式」は、機器が屋内にあります。

燃焼方式とは

燃焼方式には、「自然燃焼方式」と「強制燃焼方式」があります。「自然燃焼方式」は、燃焼の給排気を自然の通気力に任せる方式です。「強制燃焼方式」は燃焼の給排気をファンなどを使って強制的に行う方式です。

●ガスの種類

ガスの種類には、大きく分けて都市ガスとLPガス (LPG) があります。都市ガスはさらに7種類に分けられ、12A、13A はその種類の1つで、天然ガスとも呼ばれています。LPガスはプロパンガスを主成分としています。ガス機器には、その機器に合うガスの種類がラベルで表示されています。家庭で使用するガスの種類に合うものかどうか確認して下さい。

省エネ性能一覧における記載値

ガス消費量やエネルギー消費効率などの値は、ガスの種類によって異なります。本カタログに記載されている数値は、都市ガス13Aに対応した値です。

●石油と灯油

石油 (原油) は、製油所でそれぞれ用途に適したLPガス、ガソリン、灯油、軽油等の石油製品につくりかえられます。家庭で使われている石油機器は、灯油を使用します。石油ストーブ等にガソリンを使用すると、火災になるおそれがあります。

●その他の用語

● ガス消費量 (kW)

ガス機器が単位時間当たりの燃焼で消費するガス量を、単位時間当たりの熱量(kW)で表しています。例えば、1時間に1m³の都市ガス(13A)を消費する機器であれば、ガス消費量は約13kW*となります。

*都市ガス(13A)の場合、ガス発熱量=46.05MJ/m³
3.60MJ/kWhより、ガス発熱量=46.05/3.60=12.79(kW)

● 燃料消費量 (L/h)

石油機器が単位時間当たりの燃焼で消費する灯油量 (L/h) で表しています。

● エネルギー消費効率 (熱効率)

一般的にガス・石油機器のエネルギー消費効率は熱効率*で表します。消費したガス・石油の発熱量のうち、排気ガスが持ち去る熱量 (逃げた熱量) が少なく、対象物に与えた熱量が多くなると、熱効率は高くなります。熱効率が100%に近づくほど、省エネ性が高くなります。

*ガスこんろのグリル部、オープン部のエネルギー消費効率は、熱効率ではなく、1回当たりの調理に要するガス消費量で表し、その値が小さいほど、省エネ性が高くなります。

$$\text{熱効率 (\%)} = \frac{\text{対象物に与えた熱量}}{\text{消費したガス・石油の発熱量}} \times 100$$

